

新年のごあいさつ



伊達市長
菊谷 秀吉

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろから市政の推進に對しまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、温水プールとトレーニング室がオープンし、多くの市民の皆さんが楽しみながら健康を保つための施設の一つとしてご利用いただき、賑わいを見せているのは喜ばしい限りです。

また、市民の皆さんから意見を頂戴しながら(仮称)学校給食センターや(仮称)総合文化館などの建設に向けた計画の方針を決定したほか、(仮称)市民活動交流センターの整備に向けて旧市体育館の解体を行いました。

さて、本年は平成21年度から始まっており、第六次総合計画の下半期2年目となります。第七次総合計画の準備を進めつつ、目指しております将来像に少しでも近づくため、重点政策の4つのキーワード「食」「教育」「生きがい」「環境」の充実を図るべく、ハード・ソフト事業のそれぞれの分野で積極的に事業展開を行うていくことが必要だと考えております。

本年4月にはNPO法人だて観光協会が運営するコミュニティFMが開局する予定で、これにより、日常

の身近な情報、災害などの緊急情報を速やかに地域の皆さんに届けることが可能になるとともに、地域の皆さんと協働でまちづくりを行う方法が一つ増えることとなります。

また、来年3月には北海道新幹線が開業します。本市でも北海道新幹線がもたらす経済効果を受受するため、地域が連携した取り組みを進めて参ります。

消費税率引き上げによる景気への影響や少子高齢化、人口減少など、地方を取り巻く現状は厳しさを増し、予断を許さない状況ですが、伊達市の恵まれた気候と立地条件を生かして「伊達らしさ」を磨き、乗り越えようと考えております。

今後もまちの将来を見据えた事業展開を目指し、新しいことに挑戦していく精神、諦めない強い意思をもって、充実した行政サービスなど市民の皆さまのご期待にお応えできるよう職員一丸となって努力して参ります。

本年も市民の皆さまにとって、夢と希望に満ちた健やかな一年になりますようお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。

平成27年



伊達市議会議長 寺島 徹

明けましておめでとございます。市民の皆さまには、お気持ち新たに平成27年の輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、平素から市議会の活動に対し温かいご支援とご協力を賜り、伊達市議会を代表いたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界文化遺産登録や、ソチ冬季オリンピックのノルディックスキー・ジャンプ男子団体で日本が銅メダルを獲得するなど国を挙げての喜ばしい出来事がありました。一方、我が国の社会経済情勢に目を転じますと、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、生産は減少しているものの、景気は緩やかな回復基調が続いているとの内閣府の報告がありますが、地方における景気・雇用環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような中、本市においては、地域経済の持続的発展と活力あるまちづくりのため、産業基盤の強化をはじめ、観光資源の充実、人口減少・少子高齢化対策、防災対策、地域課題の解決に向けた取り組みなどについて、議会での議論を重ねてまいりました。

市議会は、市民の皆さまの意見や地域の要望をきめ細かくとらえて行政に提言し、市政に反映させると

もに市政が正しく運営されているかどうかをチェックすることが大切な役割であると認識しております。

伊達市議会では、より身近な議会、開かれた議会の実現を念頭に置き、議会改革の推進を図っており、総務文教・産業民生の両常任委員会における市内各種団体との意見交換会が軌道に乗り始めているほか、議員の一般質問に対する対応状況について「検討する」などの答弁に対して、その後の検討結果について報告を求める方式の導入が決定したところがあります。

議会は、この4月で改選期を迎え、任期満了となります。伊達選挙区17名、大滝選挙区1名という体制を維持して参りますが、改めて伊達市民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、まちづくりの主役は市民の皆さまであることを念頭に置き、今まで以上に議会機能の充実強化に努めていかなければなりません。

最後になりましたが、本年も市民の皆さまにとって、実り多き年となりますよう、ますますのご健勝とご多幸を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。